

そばくずとオカラを混合したサイレージは豚の肥育飼料として有効

【1 成果の概要】

1. 食品製造過程で発生するそばくずとオカラを原物重量比6:4で混合、調製したサイレージは良質で保存性が高い(表1)。
2. 肥育後期(体重70~110kg)にそばくず+オカラサイレージを豚に給与すると・・・
市販配合飼料を給与した場合と同等の発育成績である(表2)。
肥育後期の1頭当りの飼料費は、市販配合飼料に比べ約3,400円低減する(表2)。
ロース中の粗脂肪含量及び脂肪交雜の指標であるマーブリングスコアが高くなり、脂肪交雜の高い特色ある豚肉の生産ができる(表3、図1)。

表1 サイレージの飼料成分及び発酵品質

(単位: %)

	水分	粗蛋白質	粗脂肪	NFE	粗繊維	粗灰分	TDN	Ca	P	pH	VCN/TN
サイレージ(原物)	36.9	10.8	2.0	46.0	1.6	2.7	47.3	0.3	0.4	4.2	2.20
(乾物)	-	17.1	3.1	73.0	2.5	4.3	75.0	0.5	0.6	-	-

サイレージの発酵品質の評価: pHは 4.2で良、VCN/TNは 12.5で優

表2 発育成績及び飼料費試算

	肥育日数 (日)	DG (g/日)	出荷日齢 (日)	日飼料摂取 量(kg/日)	飼料要求率 (乾物)	飼料摂取量 合計(kg)	飼料単価 (円/kg)	飼料費 (円/頭)
サイレージ区	42.6	894	152.5	4.27	3.07	183.9	18.1	3,329
配合飼料区	43.1	919	151.7	3.00	2.86	132.2	50.8	6,718

表3 ロース肉の化学組成及びマーブリングスコア

	水分 (%)	粗脂肪 (%)	粗蛋白質 (%)	マーブリング スコア(5段階)
サイレージ区	71.3	6.5	21.3	3.9
配合飼料区	72.9	3.3	23.0	2.6

NPPC(米国豚肉生産者協議会)が定める脂肪交雜の指標
(1~5の5段階評価で数値が高いほど脂肪交雜が高い)



図1 サイレージ区のロース断面

(粗脂肪含量9.4% マーブリングスコア5.0)

【2 留意事項】

1. そばくずは水分約12%の乾麵屑を用い、オカラは水分約80%のものを用いる。
2. サイレージ調製は、そばくずとオカラを原物重量比6:4で混合して40Lビニール袋に20kgを詰めて密閉する。そばくずとオカラはカルシウム、ビタミン含量が低いため、第二リン酸カルシウムを原物比1%添加、ビタミンA D₃ Eプレミックス(VA:10,000,000IU/kg、VD₃:2,000,000IU/kg、VE:10,000mg/kg)を原物比0.1%添加する。
3. オカラは水分が高く変敗しやすいので速やかに調整する必要がある。サイレージは調製後2週間後から使用し、夏場は開封後2日以内に使い切ることが望まれる。
4. 飼料費について、サイレージは18.1円/kg(そばくず、オカラをそれぞれ5円/kgで購入、原料運搬、サイレージ化に要する資材費、人件費、攪拌機の償却費等を積算)とし、市販配合飼料は当所の購入単価50.8円/kgとして試算した。